

**あつみ温泉
国民保養温泉地計画書**

**令和7年3月
環境省**

目次

| | |
|--|-----|
| 1 . 温泉地の概要..... | 1 |
| 2 . 計画の基本方針..... | 2 |
| 3 . 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の維持・保全等に関する方策 | 3 |
| 4 . 医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導が可能な医師の配置計画または同医師との連携のもと入浴方法等の指導ができる人材の配置計画若しくは育成方針等..... | 6 |
| 5 . 温泉資源の保護に関する取組方針..... | 6 |
| 6 . 温泉を衛生的に良好な状態に保つための方策..... | 8 |
| 7 . 温泉地の特性を活かした温泉の公共的利用増進に関する方策..... | 9 |
| 8 . 高齢者、障害者等に配慮したまちづくりに関する計画..... | 1 3 |
| 9 . 災害防止対策にかかる計画及び措置..... | 1 4 |

添付書類

- 1.あつみ温泉国民保養温泉地位置図
- 2.あつみ温泉国民保養温泉地区域図

あつみ温泉 国民保養温泉地計画書

1. 温泉地の概要



あつみ温泉は、山形県の西部、庄内地方の鶴岡市南西部に位置し、面積約 20ha の中に旅館 7 軒が建ち並ぶ温泉地である。周辺の山々が日本海沿岸までその稜線を伸ばした特異な地形から、温泉街を流れる温海川（あつみがわ）を含め、海・山に恵まれた自然環境が特徴となっている。

温海川は、春には河畔の桜並木とカルガモの子育て風景、夏にはカジカガエルの美しい鳴き声に始まり、鮎釣りを楽しむ人々、秋から初冬にかけては鮭の遡上、冬には雪景色と四季折々の風景が温泉情緒を醸し出している。

また、温泉街にあるあつみ温泉ばら園は、約 90 種、3,000 本の薔薇が大輪の花を咲かせ、訪れる地域住民や温泉街を散策する観光客を楽しませている。



あつみ温泉の朝市は、湯治場であった頃に湯治客が自炊するための材料を買い求める市として賑わい、以来 300 年程の歴史を持つ。現在は、温泉街に温泉神社拝所とともに朝市広場を形成し、数店が出店している。

温海地域の特産品である焼畑あつみかぶは、現在も伝統的な焼畑農法で栽培されている赤かぶである。塩と酢、砂糖のみで漬け込むかぶ漬けは、初冬から 1 月までの時期には地域の一般家庭の食卓に上ることはもとより、各旅館での提供や観光客のお土産としても大変喜ばれている。



温泉の泉質は、ナトリウム・カルシウム - 塩化物・硫酸塩温泉に分類され、疲労回復や関節の痛み、傷の回復などに適応する温泉として、温泉街の共同浴場において、日常的に地域住民に利用されているほか、3ヶ所の足湯とともに、訪れた観光客にも利用され、地域住民との交流の場ともなっている。

2. 計画の基本方針

あつみ温泉では、官民が一体となった取組として「そぞろ歩きの楽しい温泉街」の整備を進めており、今後も温泉情緒の保全に努め、おもてなしと楽しさのあふれる温泉街を目指した取組を継続する。

一方で、あつみ温泉の伝統ともいえるべき食事内容とサービスの拡充を図り、特に、季節ごとに旬を迎える様々な食材があり、春はタケノコをはじめとした山菜料理、夏は「だだちゃ豆」に代表される枝豆、秋はキノコ類、冬は赤かぶ漬けやドンガラ汁(寒鰯汁)など、山海の豊富な食材を使った伝統的な郷土料理でお客様をもてなす、自然環境と地域の歴史を融和させたガストロノミーリズムを確立するとともに、高齢化社会、余暇社会、健康志向の高まりの中にあり、温海地域の自然環境を活かした、子供から高齢者まで楽しめる、健康増進と余暇活動の充実を図るためのプログラムと受入体制の整備を進める。

また、一部の旅館では一般的な料理の提供と併せ、嚥下(えんげ)障害など一人一人の状況に合わせた料理の提供も実施しており、療養食にも旬の食材をできるだけ活用し、温泉と食事を大事にした取組を進める。以上の取り組みを進めることで、周辺観光の宿泊拠点として持続的



発展が可能な温泉地づくりを基本方針とする。

その方策として、以下の施策を推進する。

泉源を保護し、その利用の適正化を図るため、温泉湧出量、温度、泉質の変化に常時留意するとともに、効果的・効率的な温泉利用の促進に努める。

温泉療養に適した施設の整備と、温泉療法医等関係医療スタッフの確保を図り、療養食なども活用した温泉の保健的利用のシステムの構築を進める。

豊かな自然環境を保護しながら、歴史ある温泉地として調和のとれた地域づくりを進める。

本温泉地を国民の健康的かつ健全な利用の場として保つため、歓楽地化することを防止する。

環境衛生施設を管理維持し、公衆衛生の確保に努める。

地域に伝わる郷土料理に加え、地域の自然や歴史等の魅力を融和させた長期滞在可能な温泉地の形成を推進する。

3. 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の維持・保全等に関する方策

(1) 自然景観、まちなみ、歴史、風土、文化等の概要

あつみ温泉は、日本海から2 km程山間に入った緑濃い山に囲まれた、清々しい空気と清らかな水、豊富な湯量に恵まれた環境にある。温海川河畔の狭い沖積地帯に発達した温泉街は、北東方にそびえ立つ秀峰・温海岳を背景に、西はやや開けて温海川の清流が緩やかな流れをひき、静かな情緒に富み、保養によく、また遊山によい温泉郷として、湯野浜・湯田川とともに庄内三楽湯として知られていた。

温海温泉の開基は古く、821年に弘法大師が、刹那大使のお告げにより杖を打ち立てたところ温泉が湧出したとの説があり、令和3年(2021年)を以って開湯1200年を迎えた。

また、849年に温泉街の北東部に位置する温海岳が鳴動し温泉が湧出したとする説には、このとき温海川の河床に湧き出た温泉が海に流れ出て、その海をも温めていたといういわれがあり、温海の名称の由来ともいわれている。

あつみ温泉は、文人墨客にも愛され、与謝野晶子は朝市や温海岳をうたった歌を残したほか、横光利一はあつみ温泉に度々滞在し、起筆していたことが随筆「夜の靴」の中にも記されている。



あつみ温泉の近くには、白河関、勿来関(なこそそのせき)とともに奥羽三大古関とされる「念珠関(ねずがせき)」のあった鼠ヶ関(ねずがせき)がある。鼠ヶ関は、県内有数の漁獲量を誇る港を有する、漁業の盛んな地域である。

マリパークねずがせき海水浴場は、環境省選定の「快水浴場百選」に選ばれており、海水浴やシーカヤック等のマリナクティビティを楽しむ観光客で賑わいを

みせている。

また、鼠ヶ関の弁天島は源義経が北陸から奥州平泉に潜行した際に上陸した地であるとの説があり、NHKのドラマ「源義経」が放映された後に、原作者村上元三氏揮毫による「源義経ゆかりの浜」の碑を弁天島に建立しているなど、歴史的資源も多く残されている地である。

この弁天島には大正 14 年に初点灯した「鼠ヶ関灯台」が建っており、古くから地元民に愛されてきたが、和洋融合の景観が評価され、平成 28 年には「恋する灯台」に認定された。



あつみ温泉から東南方向にある摩耶山は、1,019mの標高ながら急峻な登山道と、ブナの原生林や山頂の卓越した眺望で登山愛好者に親しまれ、5月下旬の山開きから 10 月下旬の山閉じまで多くの登山者で賑わっている。歴史的にも、主祭神須佐之男命が国土運営の折、乗馬をこの山に繋いだことから厩山と号されたことが山名の由来とされ、古くから熊野権



現の本宮として修験の霊場となる一方で、地域住民には自然の恵みを施し、漁民にとっては航海の際の目標とされるなど、広く地域住民に親しまれている。



摩耶山の麓にある関川地域に伝わるしな織は「羽越しな布」として国の伝統的工芸品に指定され、沖縄の芭蕉布、静岡の葛布とともに日本三大古布のひとつに数えられている。しなの木(シナノキ)の皮を剥ぎ 1 年間かけて紡いだ糸を布としたもので、全て手作業の製法は地域を上げて伝統的に守られ、作業風景の見学や織り体験のほか、製品を買い求める方など多

くの愛好者が訪れている。

(2) 取組の現状

あつみ温泉では、平成 12 年より温泉街の活性化を図るため、「そぞろ歩きの楽しい温泉街」を目指した取り組みを行っている。具体的には、平成 12 年に湯のまちリフレッシュ事業として、温泉街の中心通りと温海川沿いの通りを繋ぐ道を道路改修するとともに、通りの真ん中に足湯を整備している。平成 15 年からは、くらし

のみちゾーン整備事業にて、温海川沿いの車の通行を対面通行から一方通行にする
とともに、温海川やすらぎの川事業にて、川沿いを散策する人の休憩施設として「足
湯カフェ」や「ねそべりベンチ」を配置するなど、周辺の景観と合わせ親しみやす
い川づくりを実施してきた。平成 17 年にはスーパーモデル事業の認可を受け、自
動車中心の道から歩行者中心の道へ変革を進め、歩いて、見て、楽しい温泉街が具
現化されてきた。

これらの事業に先立ち、温海温泉旅館組合では温海温泉環境整備促進協議会を組
織し、行政の事業に呼応すべく朝市広場の改修を行い、それまでのテント張りとブ
レハブ小屋の朝市から、周辺の木造 2 階・3 階建ての旅館とも調和し、温泉神社の
拝所を配することで門前市の風景を持たせた木造平屋建ての店舗に改修している。

ソフト面では、温海温泉自治会に平成 12 年より湯のまち景観整備検討委員会、
平成 20 年からは「あつみ温泉魅力づくり推進委員会」を設置し、ベンチや花鉢の
設置、リボン花壇の管理を、関係団体と地域住民が協力して行い、おもてなし表現
に努めている。また、地域の若者で組織する「まちづくりチーム Y U K A I」では、
単独イベントの開催はもとより地域におけるイベントに積極的に参加し、地域の活
性化の一翼を担うほか、旅館や商店の若手経営者や後継者で組織された「アツクル」
による、温泉街への花壇やベンチの設置や、浴衣で散策するお客様を増やし、楽し
い温泉街を創出する取組も行っている。

なお、あつみ温泉では、漢字表記をした際に正しく「あつみ」と読んでいただけ
ることが少ないことから、昭和 52 年に JR の温海駅をあつみ温泉駅と改称された
ことを機に、温泉地名を「あつみ温泉」とひらがな表記をしている。

(3) 今後の取組方策

令和 3 年度より観光庁の「既存観光拠
点の再生・高付加価値化推進事業」に全
ての旅館が参画し、施設の魅力向上に努
めてきた。継続して「地域一体となった
観光地・観光産業の再生・高付加価値化
推進事業」の採択を受けたことから、引
き続き、旅館や店舗において、温泉街の
景観や環境の整備、魅力ある店舗づくり
等を進め、「そぞろ歩きの楽しい温泉街」
を目指す取組を継続する。



4. 医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導が可能な医師の配置計画、または同医師との連携のもと入浴方法等の指導ができる人材の配置計画、若しくは育成方針等

(1) 医師または人材の配置の状況

あつみ温泉では、医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導を行う医師を配置しており、その氏名及び活動の状況等は以下のとおりである。

医師

| 氏名 | 専門分野 | 活動内容 | 配置年度 |
|-------|------|---|------|
| 加藤 知邦 | 内科等 | <p>嘱託医として、温泉利用に関する相談に対応し、温泉療法の確立を目指す。</p> <p>また、温泉事業者を対象に、温泉利用についての講義を実施予定。</p> | R6～ |

(2) 配置計画または育成方針等

あつみ温泉では、医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導が可能な医師との連携を基に、入浴方法等の指導を行う人材を配置する事としており、その計画及び育成方針は次のとおりである。

| 人材 | 医師との連携を含めた活動内容 | 配置予定 | 育成方針 |
|----------------------------|--|------|-------------------------------------|
| 温泉利用指導者 (スパリエ・インストラクター) | <p>各旅館、共同浴場において、健康増進及び疾病予防のための温泉利用を安全かつ適切に実施できるよう指導する。指導に当たっては、必要に応じ、医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導が可能な医師の助言を受けることとする。</p> <p>また、予防医学の見地からも温泉と食事、コミュニケーションを大事にした取組を進める。</p> | R6～ | 日本スパリエ協会養成講座を受講し、各宿泊施設1名以上、資格を取得する。 |

5. 温泉資源の保護に関する取組方針

(1) 温泉資源の現状

あつみ温泉では、昭和26年の温海温泉大火からの復興を目指す取組の中で、現在の温海温泉源泉有限会社の前身である温海温泉振興有限会社を設立し、温泉の集中管理をいち早く実施している。

現在は、5号・6号・7号の3源泉を利用し、主配湯所と副配湯所間のキャッチボ

ール方式による循環配湯の過程で源泉を混合し利用している。

また、送・配湯所にある貯湯槽は液面制御しており、各源泉の揚湯ポンプを自動運転することで無駄のない揚湯と資源の保護に努めている。

源泉は、無色清澄にして僅かに硫化水素臭と塩味を有し、PH値 7.3、蒸発残留物 2,241 mg/kgの、ナトリウム・カルシウム - 塩化物・硫酸塩温泉に分類される低張性中性高温泉である。

| 源泉 | 温度 () | 揚湯量 (/min) | 泉質 | 揚湯状況 | 所有者 | 利用施設 |
|--------|-----------|-------------------|------------------------------------|------|---------------|--|
| 温海 5 号 | 61 | 300 | ナトリウム・ カルシウム - 塩化物・硫酸 塩温泉 | 動力揚湯 | 温海温泉 源泉(有) | 旅館 7 共同浴場 3 足湯 3 公共施設 1 アパート 1 飲泉 2 自家用 22 |
| 温海 6 号 | 56 | 300 | | | | |
| 温海 7 号 | 61 | 850 | | | | |

(2) 取組の現状

あつみ温泉では、昭和 26 年より集中管理を実施し、これまで定期的に温泉三要素（揚湯量・温度・源泉水位）の測定を行っている。

増え続ける温泉の需要への対応として、平成 29 年には温泉賦存量調査として、各源泉の再揚湯試験を実施するなど、温泉の適正利用に努めている。

温泉の有効利用の観点からは、新エネルギー財団の利子補給事業などを利用した設備の活用により、各温泉利用施設において熱交換による温泉熱を暖房や給湯などに利用し、熱交換に使用している源泉の湯量は全体の配湯量に対し約 80%に上っている。

| 源泉 | 取組 | 実施主体 |
|------------------|-------------------------------|-----------|
| 温海 5 号 ～7 号源泉 | 各源泉の温泉三要素の測定、源泉の保護に関する資源の保全事業 | 温海温泉源泉(有) |
| | 温泉熱を活用した熱交換による有効活用 | 各利用施設 |

(3) 今後の取組方策

会社組織により温泉地内のすべての源泉を集中管理していることから、規約等により突発的な事故への対応方法が定められている。また、温泉三要素の測定結果など僅かな変化に対しても対応可能な体制にあり、現在の取組方針を継続する。

また、設備の更新にあたっては、定期的に機器のメンテナンスを行うことを平成 29 年に方針を確認しており、より安定的な温泉供給を図ることとしている。

6. 温泉を衛生的に良好な状態に保つための方策

(1) 温泉の利用にあたっての関係設備等の状況

現在、あつみ温泉において、温泉の利用にあたって使用している設備及び温泉利用状況は次のとおりである。

< 浴用及び飲用利用 >

| 源泉数 | 浴用利用施設及び飲用利用施設までの設備 | 施設数 | |
|----------------|---------------------|-----|----|
| | | 浴用 | 飲用 |
| 3 (温海5号~7号) | 貯湯槽(主、副配湯所、送湯所) 配湯管 | 37 | 2 |

(2) 取組の現状

あつみ温泉において、温泉利用にあたって使用している設備について、現在行っている衛生面での取組の状況は次のとおりである。

| 設備 | 点検検査区分 | 取組 | 実施主体 |
|------|-------------------------|---|-----------|
| 源泉 | 自主的 | 3源泉について、ピット内の点検清掃を随時実施 | 温海温泉源泉(有) |
| 配湯管等 | 自主的 | 給・配湯管について、バルブ、排泥設備等の点検及び清掃を随時実施 | 温海温泉源泉(有) |
| 貯湯槽 | 自主的 | 3基の貯湯槽について、点検及び清掃を随時実施 | 温海温泉源泉(有) |
| | 山形県旅館業法施行条例第4条第8号別表第2の3 | 各温泉利用施設の貯湯槽については、年1回以上の点検清掃を実施 | 設備所有者 |
| 浴槽 | 同上 別表第2の5 | すべての浴槽について、毎日(循環ろ過装置を設置している浴槽については1週間1回以上)完全換水の上、清掃を実施 | 施設所有者 |
| | | すべての浴槽について、毎日清掃を実施するとともに、十分な温泉水の補給を行い、清浄を保持 | |
| | | すべての浴槽について、レジオネラ属菌等の検査を年1回以上実施(循環ろ過装置を設置している浴槽については1ヶ月1回以上) | |
| 飲泉施設 | 県指導要領 | 飲泉所については、一般細菌、大腸菌群等の検査を年1回以上実施 | 施設所有者 |

| | | | |
|------|-----|--|----------------|
| | | 飲泉所の衛生管理については、施設の周辺を常に清潔に保持するよう週1回の清掃を実施 | 温海温泉自治会 |
| 施設周辺 | 自主的 | すべての設備周辺について、清掃等の徹底による衛生保持 | 温海温泉源泉(有)設備所有者 |

(3) 今後の取組方策

あつみ温泉の温泉施設をこれまで以上に衛生的に利用するため、(2)の取組を継続するとともに、温海温泉源泉(有)において従来頻度を決めず実施している項目については頻度を定め定期的な実施を図る。

また、各利用施設からの相談への対応や指導を積極的に行い、温泉の衛生的利用を推進する。

7. 温泉地の特性を活かした温泉の公共的利用増進に関する方策

(1) 温泉の公共的利用の現状

温海温泉は1622年荘内藩を治めた酒井忠勝公が温海温泉に湯役所を開き、以来、歴代藩主の温海温泉へのご入湯とともに温泉地としての整備がすすめられ、現在の原形となる湯治場が形成されている。1700年頃からの50年間余りは、最も旅館が多く43軒を数えたと記録されている。昭和26年4月の温海温泉大火の災禍により旅館は減少したものの、昭和の後期は宴会を中心とした団体旅行客で賑わいを見せていた。昭和59年当時は旅館19軒、その収容人数は2,359名であった。現在のあつみ温泉は、旅館7軒、その収容人数は1,366名である。

東日本大震災発生当時には14万人台に減少した来湯客数が平成28年度には19万人台後半にまで回復したが、令和元年度の山形県沖地震や、その後の追い打ちを掛けるように発生したコロナ禍の影響により、温泉利用者数は大幅に減少している。

近年のあつみ温泉の利用状況(温海温泉旅館組合加盟施設)は次のとおりである。

過去3年間の温泉利用者数(単位:人)

| 年 度 | 宿泊利用者数 | 日帰利用者数 | 合 計 |
|-------|---------|--------|---------|
| 令和3年度 | 74,719 | 2,482 | 77,201 |
| 令和4年度 | 110,134 | 6,111 | 116,245 |
| 令和5年度 | 117,112 | 5,329 | 122,441 |

直近1年間（令和5年度）の温泉利用者数

| 温泉地 | 区分 | 施設数 | 定員数 | 利用者数 | | | | |
|-------|-------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|---------|
| | | | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 |
| あつみ温泉 | 宿泊 | 7 | 1,366 | 7,527 | 11,030 | 9,484 | 9,971 | 16,034 |
| | 日帰 | 7 | | 433 | 396 | 520 | 333 | 223 |
| | 合計 | | 1,366 | 7,960 | 11,426 | 10,004 | 10,304 | 16,257 |
| | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
| | 9,147 | 11,773 | 11,379 | 8,407 | 6,768 | 7,003 | 8,589 | 117,112 |
| | 450 | 535 | 614 | 370 | 363 | 573 | 519 | 5,329 |
| | 9,597 | 12,308 | 11,993 | 8,777 | 7,131 | 7,576 | 9,108 | 122,441 |

（2）取組の現状

| 取組 | 実施主体 |
|--|---|
| <p>【公衆浴場管理運営事業】</p> <p>正面湯と下の湯の公衆浴場を適切に維持管理し、利用する地元住民や観光客の健康維持と公衆衛生の向上を図っている。</p> | 温海温泉自治会 |
| <p>【足湯管理事業】</p> <p>温泉街に3ヶ所ある足湯を適切に維持管理し、利用する地元住民や観光客の健康維持と公衆衛生の向上を図っている。</p> | 鶴岡市 温海温泉自治会 施設所有者 |
| <p>【飲泉所管理事業】</p> <p>飲泉所を適切に維持管理し、利用する地元住民や観光客の健康維持と公衆衛生の向上を図る。また、定期的に水質検査や清掃を行い、公衆衛生の維持を図っている。</p> | 鶴岡市 温海温泉自治会 |
| <p>【公衆トイレ管理事業】</p> <p>温泉街に5ヶ所ある公衆トイレを定期的に清掃し、公衆衛生の維持を図っている。</p> | 各施設管理者 |
| <p>【温泉熱の有効利用】</p> <p>旅館や公衆浴場へ給湯した温泉を熱源として、熱交換によるCO2削減と燃料費の削減を図っている。</p> | 各温泉利用施設 |
| <p>【あつみ温泉朝市広場】</p> <p>あつみ温泉の歴史の保全と新たな賑わいづくりのため、地場産品販売やイベントの会場となっている。</p> | 温海温泉環境整備促進協議会 あつみ観光協会 |
| <p>【おもてなし装置整備事業】</p> <p>温泉街のおもてなし空間整備として、リボン花壇の薔薇の育成や、ベンチ・花鉢・ソファなどを設置し、おもてなしの表現に努めている。</p> | 温海温泉自治会 出羽商工会温海支所 あつみ観光協会 アツクル |

| | |
|---|-------------------------|
| <p>【あつみ温泉ばら園】 山形県庄内地域唯一のばら園として約90種3千本の薔薇が咲き誇り、昭和38年開園以来多くの観光客や地域住民の憩いの場所となっている。</p> | 鶴岡市 |
| <p>【温海岳登山道】 やまがた百名山に選定されている標高736mの温海岳の登山口が温泉地内にあり、里の名水・やまがた百選に選定された「古和清水」や滝、ブナ林など見所が豊富な登山道があり、登山客で賑わっている。</p> | 鶴岡市 |
| <p>【温海総合運動場】 主に野球やソフトボールのスポーツ愛好者が利用している。</p> | 鶴岡市 |
| <p>【温海湯見ヶ代運動場】 テニスコートやグランドゴルフ場が整備され、多くの愛好者に利用されている。</p> | 鶴岡市 |
| <p>【あつみ温泉誘導看板とシンボル塔管理事業】 あつみ温泉を訪れるお客様への案内と誘導のための看板・シンボル塔を管理し、お客様の利便性の向上を図っている。</p> | あつみ観光協会 |
| <p>【観光施設の管理事業】 温泉街の歌碑や句碑などの観光施設、及び付帯施設等を適切に管理している。</p> | あつみ観光協会 各施設管理者 |
| <p>【温海川河畔の桜並木ライトアップ事業】 桜の開花期に合わせて、温海川河畔の桜並木のライトアップを実施している。</p> | あつみ観光協会 |
| <p>【あつみ温泉ばら園まつり・おもてなしまつり】 ばらの一番咲きの見ごろに合わせ、地域の商店等によるおもてなしイベントを開催しており、フォトコンテストやばら足湯・ライトアップなど、ばら鑑賞と温泉街散策を組合わせた企画を行っている。</p> | あつみ観光協会 出羽商工会温海支所 |
| <p>【あつみ小学生サクラマス稚魚体験放流】 あつみ小学校低学年を対象に、サクラマス稚魚体験放流を行い、自然に触れ、その大切さを学んでいる。</p> | 温海町内水面漁業協同組合 あつみ観光協会 |
| <p>【温海旬御膳～冬のごっつおめぐり事業】 温海地域の旅館や飲食店で、冬の旬の食材を使用した食事プランを提供しており、温泉旅館では温泉入浴も可能。</p> | あつみ観光協会 |

| | |
|---|----------------------------------|
| <p>【あつみ温泉ひなまつり事業】</p> <p>旅館や商店に雛人形を展示し、スタンプラリーなどを行い、温泉街散策をお楽しみいただくと共に、和菓子作りなどの体験も実施している。温泉旅館では昼食プランの提供もっており、利用者は温泉入浴も可能。</p> | あつみ観光協会 |
| <p>【摩耶山新酒まつり】</p> <p>温海地域限定販売の清酒「摩耶山」の新酒と酒の肴を楽しんでいただくイベントを開催している。</p> | まちづくりチームYUKAI |
| <p>【あつみ温泉お湯輿まつり】</p> <p>あつみ温泉の開湯 1200 年を記念して製作された「お湯輿」を担いだ若者が温泉街を練り歩き、お湯を掛け合う創作祭りで、地元民と観光客が一体となって楽しむことができるイベントを開催している。</p> | あつみ温泉魅力づくり推進委員会 まちづくりチームYUKAI |
| <p>【「温泉むすめプロジェクト」を活用した着地型商品開発や企画の実施】</p> <p>全国展開している「温泉むすめプロジェクト」というツールを活用し、あつみ温泉のキャラクター「あつみ詩鶴」を使った着地型イベントやグッズ販売を行い、新たな客層の開拓に取り組んでいる。</p> | あつみ観光協会 |
| <p>【あつみ温泉ゆかたゆ巡り事業】</p> <p>温泉街を浴衣で散策しながら提携店舗で特典を受けるなど、あつみ温泉内の旅館の温泉をはしごして湯巡りを楽しむ、宿泊・日帰り者ともに楽しめる企画を実施している。</p> | アツクル あつみ観光協会 |
| <p>【竹あかり点灯事業】</p> <p>「竹あかりプロジェクト」の協力により、竹あかりをあつみ温泉内での各種イベントの際に点灯し、幻想的な雰囲気にもまれた夜の温泉街を楽しんでいただく。</p> | あつみ観光協会 |
| <p>【コワーキングスペースの活用推進】</p> <p>コロナ禍によりワーケーションの需要が高まったことを受け、「足湯カフェチットモッシュェ」の2階に整備したコワーキングスペース活用を推進する。</p> | 温海温泉旅館組合 |

(3) 今後の取組方策

あつみ温泉において、更に温泉の公共的利用の増進を図り、あつみ温泉の優れた環境を次世代へ継承するため、地域の環境を保全し、これまでの取組に加え、あつみ温泉の料理とサービスに、地域の自然、歴史、文化を融和したガストロノミーリズムを確立するための取組を実践する。

また、健康増進と余暇活動の充実を求めるお客様への対応として、周辺地域の自然を活かした観光施設の活用と、関係機関と連携してガイドやインストラクターを

育成し、裾野の広い温泉地を目指し、次の取組を進める。

| 取 組 | 実施主体 |
|--|---------------------|
| 日本スパリエ協会のスパリエ・インストラクターの資格取得による温泉利用指導者の育成 | 温海温泉旅館組合 温海温泉自治会 |
| 温海地域の食文化の研究と郷土料理の掘り起こし | 温海温泉旅館組合 |
| 地域における滞在型プログラムと観光モデルコースの作成 | あつみ観光協会 |
| 温泉街散策における観光ガイドの育成増員 | あつみ観光協会 |
| 地域内において体験型観光に取り組むNPO法人と連携した体験観光におけるインストラクターの育成増員 | あつみ観光協会 |
| 山岳愛好者並びに団体と連携したガイドの育成増員 | あつみ観光協会 関係団体 |
| 温泉熱の有効活用に関する調査研究 | 温海温泉源泉(有) |

8. 高齢者、障害者等に配慮したまちづくりに関する計画

(1) 公共の用に供する施設の現状

| 温泉地 | 区 分 | 施 設 |
|-------|------|--|
| あつみ温泉 | 公有施設 | <p>県道：主要地方道余目温海線</p> <p>市道：柳原1号線、湯之里柳原線、柳原3号線、柳原4号線、柳原5号線、柳原6号線、柳原7号線、湯見ヶ丘団地線、庚申堂湯見ヶ代線、湯之里通線、早蕨通線、河鹿荘通線、海老屋裏通2号線、海老屋裏通1号線、葉月橋通線、月見橋通線、山の手通線、中央通線、会館裏通線、遊園地通線、河畔前通線、熊野神社南大通線、遊園地配水池通線、配水池通温海岳線、湯之里中央3号線、湯之里中央1号線、湯之里中央2号線、湯之里紅葉岡線、湯之里町営住宅1号線、湯之里町営住宅2号線、湯之里中通線、湯之里西通線、湯之里川通線、湯之里湯見ヶ代線、湯見ヶ代峠ノ山線、湯之里越路線、紅葉岡1号線、紅葉岡2号線、紅葉岡3号線、紅葉岡4号線、紅葉岡5号線、紅葉岡6号線、越路1号線、越路2号線、越路3号線、湯之里1号線、湯之里南通り線、柳原紅葉岡線、片淵湯之里線、湯の沢線</p> <p>公衆用トイレ：2ヶ所 足 湯：2ヶ所 飲泉所：2ヶ所 公 園：1ヶ所</p> |

| | | |
|--|------|---|
| | 私有施設 | 旅 館：7軒 公衆用トイレ：3ヶ所 足 湯：1ヶ所 朝市広場：1ヶ所 |
|--|------|---|

(2) 取組の現状

あつみ温泉において、高齢者、障害者等に配慮したまちづくりのため、現在行っている取組の状況は次のとおりである。

| 温泉地 | 区 分 | 施設 | 取 組 | 事業主体 |
|-------|------|------|---------------------------------|-----------|
| あつみ温泉 | 私有施設 | 朝市広場 | 入口をスロープにし、トイレも段差がないように設置している。 | 温海温泉源泉(有) |
| | | 建築物 | 段差が少なく高齢者・障害者等に配慮した施設の改修を行っている。 | 各施設所有者 |

(3) 今後の取組方策

あつみ温泉において、さらに高齢者、障害者等に配慮したまちづくりを図るため、実施主体と調整の上、(2)の取組を継続するとともに、それに加え次の取組を進める。

| 温泉地 | 区 分 | 施設 | 取 組 | 事業主体 |
|-------|------|------|---|--------|
| あつみ温泉 | 公有施設 | 公 園 | 温泉地内にあるばら園及び公園は一部バリアフリー化などを目指し改修を予定している。 | 鶴岡市 |
| | | 案内板等 | 近年増えてきている外国人旅行者へ対応するため、多言語対応の案内板やパンフレットの整備を進める。 | 鶴岡市 |
| | 私有施設 | 建築物 | 各施設において手すりなどバリアフリー等の整備をより一層進める。 | 各施設所有者 |

9. 災害防止対策に係る計画及び措置

(1) 温泉地の地勢及び災害の発生状況

あつみ温泉は山形県庄内地方の南西部に位置し、標高は約30メートル、温泉街の中心には温海川が流れている。四方を山で囲まれた地形で、北東には温海岳、南西には天魄山が望まれ、庄内海浜県立自然公園区域内にある。

また、土砂災害特別警戒区域が8ヶ所存在し、温泉街を流れる温海川周辺が洪水災害浸水想定区域となっている。

主な災害の発生状況

| 発生期 | あつみ温泉の被害状況 |
|------------|-------------------------------------|
| 昭和26年4月24日 | 火災により251戸全焼 被災者1,700名超 |
| 昭和39年6月16日 | 新潟地震により全壊5戸、半壊15戸、6世帯避難 |
| 昭和62年8月29日 | 集中豪雨による全壊流失1棟（非住家） |
| 平成7年8月10日 | 集中豪雨による床下浸水10戸（内非住家1） 5世帯21人が避難。 |
| 令和元年6月18日 | 山形県沖を震源とする地震により、一時避難者300名超 |

（２）計画及び措置の現状

あつみ温泉において現在、災害防止に関し策定している計画及び講じられている措置は次のとおりである。

| 計画又は措置 | 計画または措置の概要 | 実施主体 |
|---------------|---|--------------------|
| 土砂災害特別警戒区域の指定 | 土砂災害防止法に基づき、急傾斜地の崩壊などが発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民などの生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制などが行われる区域として、あつみ温泉地区は平成20年12月16日に8ヶ所を指定。 | 山形県 |
| 地域防災計画 | 災害対策基本法に基づき市が策定し、災害の種類ごとに予防から応急対策、復興にいたるまで、警戒避難体制や各主体の役割などを包括的に計画。行政、自主防災組織、市民などの災害対応体制を確立。 | 鶴岡市 |
| 防災行政無線など | 同報系無線をあつみ温泉地区に4基、画像伝送装置1台、福祉施設などに戸別受信機2基を配備。移動系無線は温海温泉林業センターにIP無線1基を配備。 なお、温海温泉自治会で管理している有線放送を利用し、各世帯へ同報系無線の放送内容などの情報伝達を行っている。 | 鶴岡市 温海温泉 自治会 |
| 各種ハザードマップ | 【洪水ハザードマップ】 平成23年3月に洪水の浸水想定区域、避難場所、避難所などを記載したマップを作成し、温海川沿線の集落などに配布。令和2年度に更新した。 【土砂災害ハザードマップ】 土砂災害警戒区域は山形県の調査結果に基づき指定され、平成23年3月に警戒区域、避難場所、避難所などを記載したマップを作成し、温海温泉自治会全世帯に配布。令和5年度に更新した。 | 鶴岡市 |

| | | |
|-------------|---|-----|
| 温海川ダム洪水対応演習 | 毎年4月から5月に洪水災害を想定した温海川ダム洪水対応演習を実施。サイレン吹鳴や警報車による啓蒙などにより情報伝達訓練を実施。 | 山形県 |
|-------------|---|-----|

(3) 今後の取組方策

あつみ温泉において、災害の防止を図るため、実施主体と調整の上(2)の計画及び措置に基づく取組を継続するとともに、それらに加え次の取組を進める。

| 取 組 内 容 | 実施主体 |
|---|--------------------------------|
| <p>温海川ダム洪水対応演習の継続や来年度以降、温海温泉自主防災会が主体として土砂災害を想定した避難訓練の実施を検討し、関係機関と住民との間で災害に関する情報共有を進めることにより、災害対応力の強化を図る。</p> <p>また、「鶴岡市地域防災計画」及び「温海温泉自主防災計画」に基づき、避難行動要支援者の抽出と避難支援の体制作りを醸成する。</p> | <p>山形県 鶴岡市 温海温泉自治会</p> |
| <p>山形県が令和元年度に公表した温海川の洪水浸水想定区域図に基づき、当該河川の見直し後の洪水災害ハザードマップを令和2年度に更新した。</p> | <p>山形県 鶴岡市 温海温泉自治会</p> |

あつみ温泉 位置図

位置図 秋田県

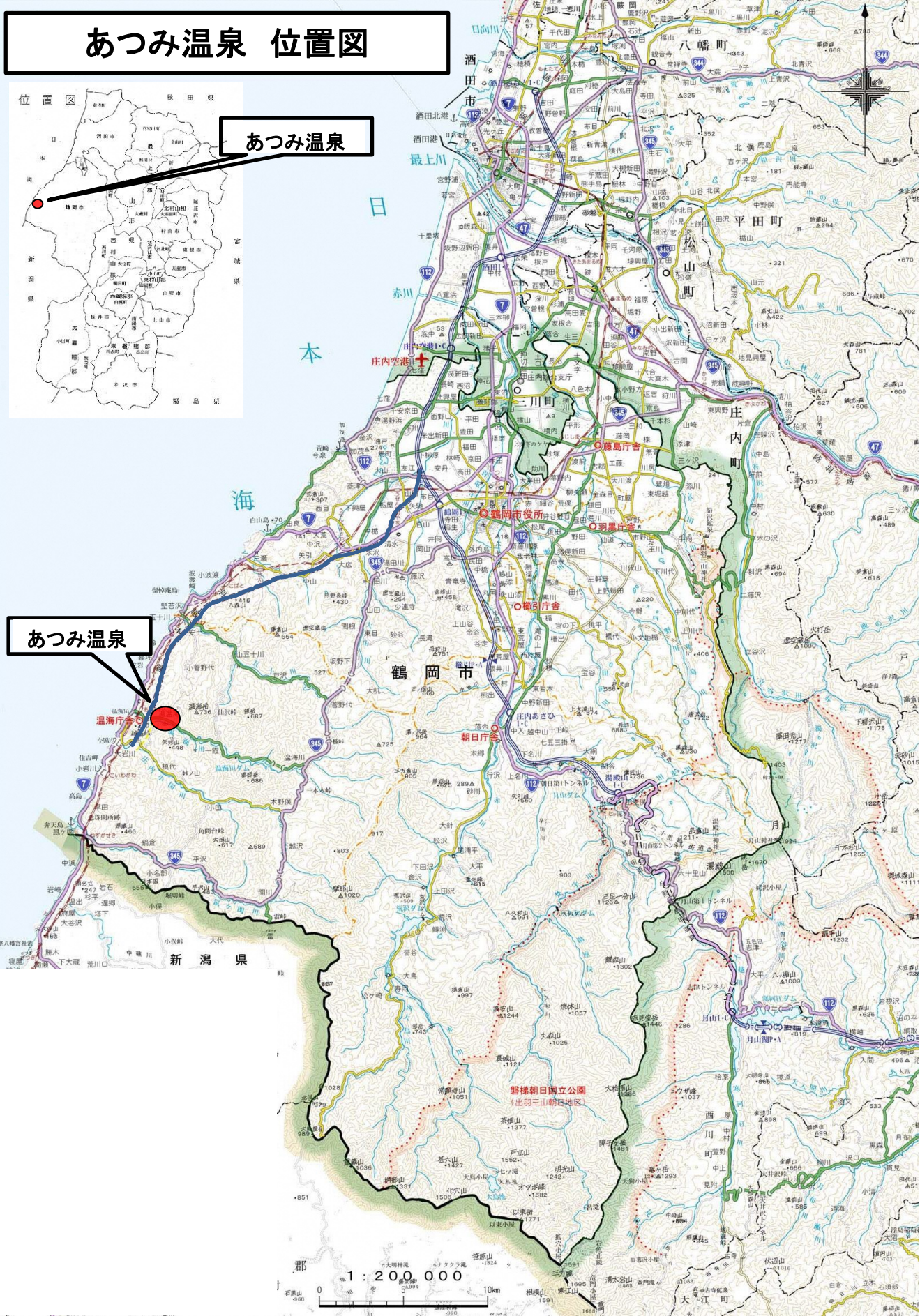


あつみ温泉

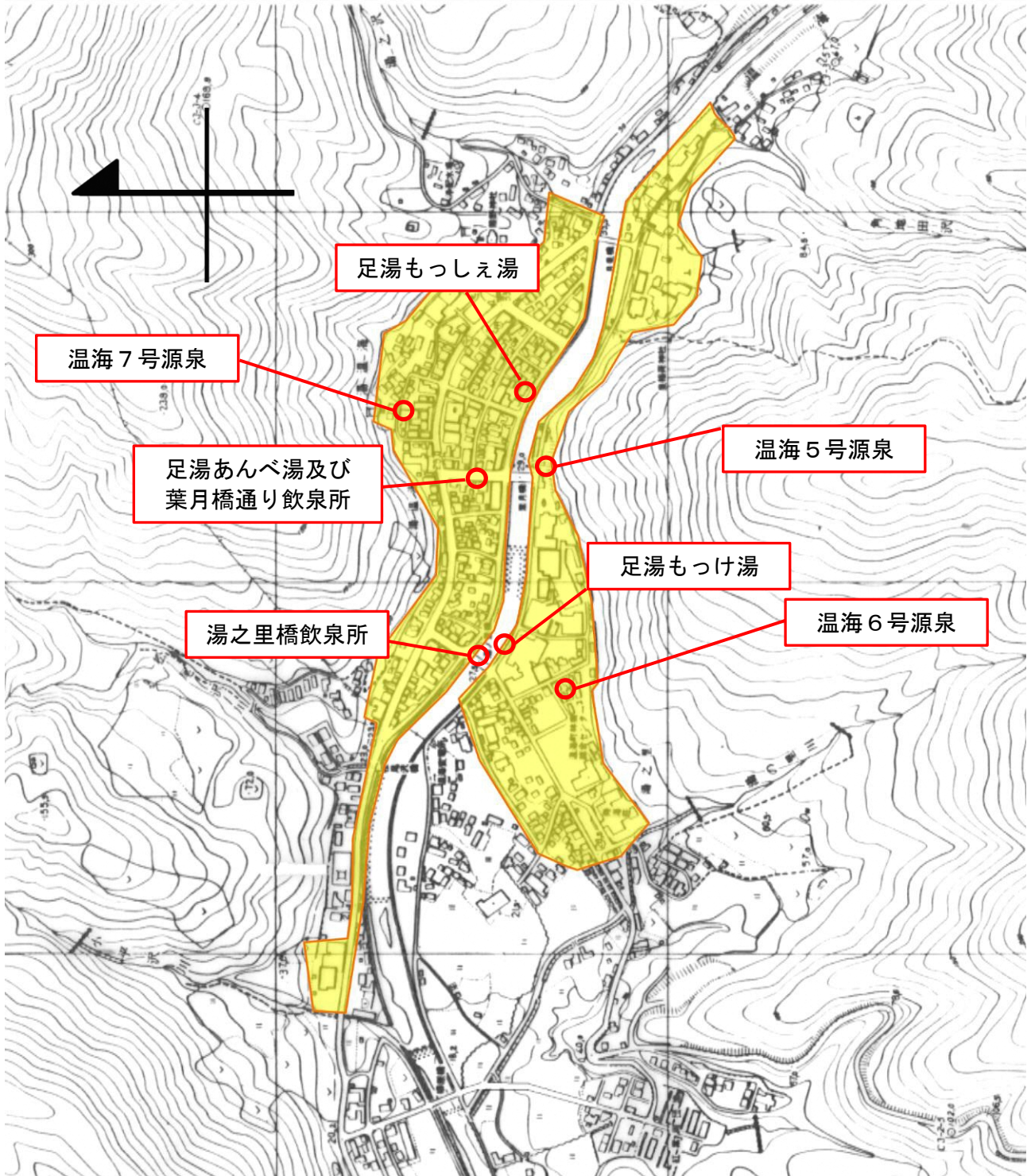
あつみ温泉

温泉庁舎

1 : 200,000
0 5 10km



あつみ温泉区域図



面積計 ; 20.1ha

縮尺 1/7500